

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3170100410
法人名	社会福祉法人こうほうえん
事業所名	グループホームはまさか
訪問調査日	平成 21 年 3 月 2 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 24 日
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉経営ネットワーク

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3170100410
法人名	社会福祉法人こうほうえん
事業所名	グループホームはまさか
所在地	鳥取県鳥取市浜坂253-1 (電話) 0857-23-6662

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉経営ネットワーク		
所在地	東京都千代田区九段北4-1-9-4F		
訪問調査日	平成21年3月2日	評価確定日	平成21年3月24日

【情報提供票より】(21年2月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 11年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 8 人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	19,500 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,100 円	

(4) 利用者の概要(2月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	73 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	横浜病院・栄町クリニック・田中医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所独自の理念を利用者と職員が唱和する機会を設けており、ともに生活を楽しんでいこうという姿勢があり、実践している。また、利用者一人ひとりを尊重し、その人らしさを追求していくために、個々の職員が支援の中で気づいたことをノートに記載し、申し送り等の機会に共有し支援に活かしている。職員同士が意見を言い合える環境があり、職員同士がともに学び合おうとする雰囲気を醸成している。さらに、日常の食材の提供、行事への参加や協力等、家族との連携が図られている。その結果として、利用者と職員が明るくゆったりとした雰囲気で生活できていることがうかがえる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>各種の記録の方法がやや複雑で、職員の業務上の工数増が見られ、円滑なシステムが改善課題であった。今回日常業務の実施途中で記録を行うように、時間の割り振りを変更した。転記作業は担当者が行い、業務効率が向上している。業務時間内に完結するように改善された。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前年の評価をベースにして、職員自身で客観的に見直し、職員会合で改善を検討するように進められた。この評価の機会を、定期的な業務の見直しの場として活用するようにしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>年間4回の運営推進会議が行われている。会合メンバーに事業所の理解が進んでいる。①地域・自治会などとの行事の相互紹介、連絡、報告。②利用者状況、職員異動などの報告。一地域の老老介護の状況、中学生職場体験における言葉遣い、ボランティアからの利用者への感謝など③家族会でグループホームでの看取りの話の紹介④防災避難訓練報告一火災時の町内協力の話などのアイデアが出されている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族からの意見、希望、相談などの収集は、法人が行うアンケートによって行われ、それを元に分析・検討がなされている。又、日常の利用者の意向などは、職員が記録する「何でもノート」によって、情報が共有されている。利用者の希望は可能な限り行うように進められている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会などを始めとした地域とは双方の行事(敬老会、文化祭、夏祭りなど)で交流している。近くの2つの幼稚園との交流もあり、児童の来訪を利用者は楽しみにしている。ボランティアの受け入れも30件程度ある。自治会の役員(副会長)も務めている為、さらなる地域との連携に期待している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念・グループホーム理念・介護10原則などを掲示し、来訪する家族や、近隣の人・ボランティアなどにも知らせるように工夫している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人のグループホームの共通の介護10原則と本事業所のグループホーム理念を、午前10頃に職員と利用者が唱和してみんなが理解するようにしている。利用者が文字を読んで声を出すことが一つのリハビリにもなっていると思われる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会行事、公民館行事などに参加し、また、事業所の行事にも招待して、地域との交流が図られている。小学校の演芸会鑑賞や2つの幼稚園との交流も、利用者が喜んでいる。自治会の役員を事業所が受けているため、より一層の連携が行えよう。	○	法人と市とは相互防災協定等締結しているが、この事業所と88軒で構成される自治体との小規模な相互支援協定を結ぶのはどうだろうか。火災や病気など独居老人が困った時の避難相談場所・介護や食事援助をし、この事業所が困ったときには、地域の人たちが応援に来るといふ相互支援は、地域密着型の真髄ではなからうか。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の評価をベースにして、職員が話し合い、今年度の自己評価に取り組んだ。自分たちの日常の業務の定期的振り返り・見直しの場として、意識改革が図られている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年4回委員会が行われた。事業所から利用者状況、運営状況の報告に対して民生委員や行政から質問や意見がある。また、自治会からの行事の紹介、事業所の行事との交流も話し合い、福祉制度の情報や地域の動向、地域の老々介護や火災時の問題などの話があり、事業所として対応すべき事が見出されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への参加が得られていると共に、市の担当者と随時連絡を取っている。最近、メールによる情報交換が有効であるとのことである。疑問点を聞き素早く処置ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	年2回の家族会のほか、家族の来訪時に利用者の情報を報告している。毎月、月便りに生活の様子、金銭管理報告、職員の異動などを報告し、行事のお知らせや法人の広報市も送付するようにしている。必要な場合の電話連絡も行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族のご意見ポストの設置や法人苦情ダイヤル番号を掲示している。法人のアンケートも年一回実施され、グループホーム全体の総合的な問題を把握し、検討がなされ、対応が進められている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この一年は、職員の交代はなかったが、過去の例では、新旧の職員の引き継ぎ期間を一か月として、新任職員に徐々に慣れてもらい、前任者から滑らかに引き継ぎが進められ、利用者への影響がないようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の年間研修と事業所エリア内の研修が並行して実施されている。可能な限り参加し、研修内容を報告するようにしている。新人に対しては体験学習(OJT)を含めて、1年間の担当先輩(エルダー)が指導を続けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会に入会して、同業者の情報交換が行われている。市内の協会メンバーと年一回の相互研修(職員が交換して3日間体験する)で交流が行われている。法人内のグループホームの会合も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	スペース的に体験入居する余裕がないため、入居前に1回は事業所に来てもらって、雰囲気や入居者の生活・役割・外出などを見てもらおうとしている。地場の利用者が多く、会話もあり、早くに馴染むようになっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を人生の先輩と考えて支援を行っているため、一緒に家事や食事・掃除などを一緒に行っている。地域の慣習や調理など職員が習う場面もある。特に、今年は、畑仕事ではいろいろ教えられ、作物の出来として素晴らしかったとのことである。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々のその人らしさを追求しており、日常生活における利用者の言葉や態度、表情、行動に関しては、職員間で情報を共有し、意向や要望を吸い上げるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の介護計画を作成するにあたり、利用者及び家族からの意向や要望を反映しているが、必要に応じて主治医からの意見等も計画に盛り込んでいる。意思表示が困難な利用者からは、日常の支援の中から意向と思われる部分を抽出し、職員間及び家族とも共有して反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは半年に1回行っている。利用者の状況に変化があり、計画の見直しの必要がある場合には、随時変更している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所は法人内の訪問看護ステーションと連携をとり、利用者の状況によっては、2週間に1度の割合で来てもらっている等、法人内との支援体制が構築されているため、必要に応じて様々なサービスを提供することができる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に利用者及び家族から主治医について確認をしている他、事業所の担当医について説明をし、担当医と信頼関係を築き、家族への協力を得ながら受診の支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所では、早い段階から「終末期の意向確認書」で家族の意向を確認している。それにより、医療関係との連携や職員の支援体制の整備などに取り組んでいる。また、夜間時等緊急を要する場合の連絡体制や対応についてマニュアルを作成し、職員間で共有して取り組んでいる。	○	今後、利用者の高齢化及び重度化に伴い、終末期の支援体制についての職員間の意識の共有とスキルアップ、医療機関との連携強化などのさらなる体制整備に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄や入浴時等、利用者のプライバシーに関する声かけは、耳打ちや他の利用者がいない場所で行う等、配慮している。また、申し送りについては事務所内で行っており、利用者の個人名は出さず、暗号により情報を共有している。記録についても同様に暗号化している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所では、利用者一人ひとりの生活を尊重しており、その日の利用者の体調や精神状態を考慮し、利用者の意向に沿うよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、職員が利用者に食べたい物を聞き、季節や話題をもとに献立を決めている。また、買い出しは利用者の意向を聞き、要望がある利用者とは出かけている。また、調理や配膳、片付け等は、それぞれ利用者の希望や状態に沿って行っている。配膳は、ランチョンマットや花などで演出して、しつらえにも工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午後を希望する利用者が多いため、午後から行っている。また、利用者のバイタルチェックを行い、体調を確認して対応している。季節や状況に応じて入浴剤を変えてみる等の演出をして、入浴を楽しめるように取り組んでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が趣味としていた詩吟や踊り、ハーモニカ、太鼓等、これまでの生活の中で行っていた内容を活かし、利用者の状態を考慮しながら取り入れている。また、現在の生活の中で、洗濯たたみや植木への水やり等、役割を見出して取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の食材の買い出しは、利用者の意向を聞き取り出かけている。また、年2回買い物ツアーの日を設定し、利用者の好みの衣服やおやつ等を買に行っている。その他、外出を好まない利用者も庭に出て日光浴をしたり、近隣の行事へ参加するなど外気に触れられるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所では、日中は玄関や窓は開錠しており、玄関から庭には自由に出ているようになっている。また、利用者の状況によっては、外出の際に利用者自身に自分の部屋に施錠してもらう場合がある等、個々の状態によって対応している。倉庫や浴室は利用者の安全面の配慮から、時間帯によって施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所では、原則年2回消防署と連携して避難訓練を行っており、夜間を想定した訓練では、職員一人体制でどのように誘導するかについて具体的に取り組んでいる。また、法人が市と応援協定を結んでいる他、事業所も自治会と連携して、緊急時の対応について確認している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事や水分量は、それぞれのチェック表に記録して把握している。また、排泄状況や体重等との関係について、定期的に担当医に確認をとっており、個々の食事形態や状況に応じている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に花や植木が置いてあり、リビングのテーブルにも一輪どしが飾ってあった。調査日は翌日に雛祭を控えており、雛人形を飾り華やかな雰囲気であった。また、共有空間は整理整頓され、清掃が行き届いており清潔感のある状況である。テーブルは、数か所に分けて、利用者自身で居心地のよい場所を見つけてくつろげるよう、個々の利用者に配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者個々の居室には、利用者が馴染みの深い調度品や使い慣れた家具をしつらえている。また、居室のレイアウトは、家族等と相談の上、利用者の意向を確認して居心地よい空間になるよう支援している。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームはまさか
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	鳥取県鳥取市253-1
記入者名 (管理者)	小谷 佐奈恵
記入日	平成 21 年 2 月 25 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念・グループホーム独自の介護10原則を掲示し、入居者、職員全員で、毎日唱和をし職員へ周知徹底を図り実現に取り組んでいる。その中で毎日一つを選び重点的にケアの意識付けを行っている。		
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	すべての職員が、運営理念を述べるができる。介護10原則に基づいた介護を実践している。毎朝朝礼で理念を復唱し1日の始まりとしている。		
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営理念・方針を玄関に掲示している。また、入居時には、入居者、家族に説明をしている。		
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	自治会に参加し回覧板などを隣近所に回すなど交流を深めている。近隣の人たちが慰問に来てくれている。		
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会行事、公民館行事などに参加(敬老会・文化祭)し地元の方との交流を図ると共に自治会の役員を受け会議にも参加している。また、近くの幼稚園、保育園との交流もしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	自治会活動(一斉清掃、消防訓練など)に参加している。運営推進会議の中で認知症高齢者の情報共有を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義とねらいについて、職員で話し合い、全員で自己評価に取り組んでいる。定期的な見直しの場としている。また、職員間での意識統一の機会としても役立っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヵ月に1回運営推進会議を開催し事業所からの報告と共に質問、意見、要望を受け、サービスの向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市長村担当者と随時連絡を取り情報交換を行っている。疑問点なども担当者に聞きサービスの質の向上に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は人権について研修を受けている。現在入居者の中に成年後見制度を利用している方が居り、必要時には家族に情報提供を行っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修に参加する機会を作り知識の共有に努めている。虐待が見過ごされる事のない様、職員間で注意を払い防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が求めているものを理解し、必要な支援を見極め他部署との連携にも努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の状況に合わせて、一度はグループホームに足を運んで頂き雰囲気になれていただけの様に支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を人生の先輩と捉え尊敬し一緒に食事や家事、掃除などを協働し穏やかな生活を送れるよう共に支え合える関係作りを心がけている。又、畑仕事も教えてもらいながら一緒に作物を作っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者を共に支えあうもの同士としての関係作りに努めている。行事参加、苑庭作業などにも一緒に参加していただくこともある。家族が外泊時は事前に連絡をもらい常に連絡がつくように努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と利用者との外出が自由に出来るようにしている。開苑記念や誕生日会など行事参加できるように働きかけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参りに出かけたり、自宅への外泊外出の支援など馴染みの関係が継続できるよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士がお互いに力を発揮できる場面を作る配慮をしている。利用者同士がお互いに部屋へ行き来きして関係を大切にしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても、来苑していただけるよう、近所であつたりマーケットなどであっても声をかけ話しをし、よい関係を継続している。また運営推進委員にもなっている。ケアハウスへ移られた後も遊びに来てもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人の思いや意向をケアプランに反映させている。思いを表現しにくい方には、表情や日常の様子を観察し、生活歴などを参考にしながら本人の思いに近づける努力をしている。	○	利用者の思いを汲み取れるよう日頃から寄り添いコミュニケーションを図りながら信頼関係を作っていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ヒストリーシートや生活歴、エピソード、家族からの聞き取りなどで把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護日誌や、個人記録に一人一人の1日の過ごし方、心身の状態などを観察記録し現状把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員が本人、家族から意向を聞いたり、家族と入居者を含めたカンファレンスを開いている。又、職員同士の情報交換などで本人の意向にそった生活支援計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年に一回見直しを行っているが状態の変化などが生じた場合は、本人、家族などと話し合い、都度、現状に即した見直しを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人記録に日々の様子、気づき、工夫を記録し、申し送り時などで情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。</p>	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>現状をみながら、本人の状況により、訪問看護に二週間に一度の割合で来てもらっている。</p>	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>必要に応じて地域資源を活用し利用者が生活しやすい様に支援している。</p>	
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>利用者、家族に日常の生活情報を伝え必要に応じて他のサービスへ移行していく体制がある。</p>	
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>地域包括支援センターと相談し対応している。運営推進会議に参加して頂き、情報交換し共有を行っている。</p>	
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入所時からの担当医を利用して頂き、担当医との信頼関係を築きながら状態に応じて家族と協力し、受診支援を行っている。受診前後の情報交換も密に行い共有に努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声のトーンや、話の内容を他者に配慮しながら、声かけをしている(排泄など)又、個人情報漏れがないように申し送りを事務所でしている。個人記録の取り扱いにも配慮している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々の能力に合わせて理解をして頂けるような言葉かけや、声の大きさに配慮しながら行っている。自己決定が出来るような支援や能力が発揮できるような軽作業の支援を行っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や精神状態を見ながら、一人一人のペースに合わせて本人の希望に配慮した支援が出来るように努めている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入所以前からの馴染みの理美容院は、利用していないが福祉美容にきてもらい、好みの髪型にして頂いている。また、希望により移動理美容車が利用できる体制をとっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ、盛り付け、味付け、茶碗拭きなど利用者の状態に合わせて炊事に関わって頂いている。会話の中から食べたいものなどを聞いている。一緒に食事をし、後片付けもして頂いている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	何種類かある中で好みの飲み物を選んで頂いている。年に1～2回程度お酒も提供している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを把握しながら支援している。失禁にならないように様子を観察して声掛けを行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後からの入浴の希望が多く、入浴は午後からとしている。体調の把握や、本人の希望も聞きながら、入浴剤を使用し入浴を楽しんでいただけるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の就寝時間を配慮し支援している。夜間安眠につながる様に日中の活動にも配慮している。寝付かれない時は温かい飲み物などを提供し安眠を促すようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の趣味、役割、希望を把握し日々の生活の中で活かせるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に衣服、おやつなどの買い物に行き、好みのものを購入していただき一緒に支払をする等の支援を行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買い物に行く時などは、希望を聞き一緒に出かけている。また苑庭を自由に散歩されたり、催し物、外食に出かけるなどの支援にも努めている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	初詣、花見、紅葉狩、ホテル観賞、外食などの機会を作り、家族にも声掛けをして参加を呼びかける支援をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時、状況(不穏時)に応じて家族に電話をかけ、会話をして頂いてる。年賀状も個々に作成し家族などに送る支援をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人がいつでも来苑して頂けるよう声掛けをしている。来客があったときは、職員、利用者が笑顔で出迎え、お茶出しをして頂いている。家族、知人の来苑時には、各居室で、お茶を飲んでゆっくり過ごせる環境を提供している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人でネバモア宣言をし身体拘束の廃止を行っている。法人内の研修などを通して職員は身体拘束の意味を理解している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関、窓などを開錠している。玄関から苑庭には自由に出て頂ける体制を取っている。所在確認を行いながら、時には一緒に散歩も楽しむよう努めている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は昼夜を問わず、定期的に所在確認を行い安全に配慮している。居室のドアを閉める、入室時には声掛けをするなどプライバシーに配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人一人の物品管理を行い個々に応じた居室の環境を整えている。また必要に応じ施錠をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	年2回を原則に避難訓練の実施や、個々のリスク対策、法人のマニュアルの周知、法人独自の事故報告書の作成など事故防止及び再発防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	講習会、研修に参加し知識の習得、応急手当、救急救命法の勉強を行っている。訪問看護との連携や、随時指導も受けている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回を原則に避難訓練を行っている。自治会に入会し、地域の人との関係作りに取り組んでいる。災害時に備えて、食料、飲料水の備蓄を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	小さな変化でも家族に知らせている。一人一人に起こりうるリスクも、職員間で検討し、カンファレンス時、来苑時などに知らせ話し合っている。リスクに配慮しながら、個々の能力が発揮できるよう支援している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の日頃の状態を把握し早期発見に努めている。経過観察の記録を残し、情報の共有を図っている。主治医、訪問看護に報告し指示を仰いでいる。家族にも報告し共通意識に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に目を通し、目的、副作用、用法、用量を確認し医師の指示通りに服薬している。往診時に個々の状態報告を行い連携を図っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘薬ばかりに頼らないようにし、食事、水分、運動などに配慮しながら、個々の状態に合わせた支援を行っている。	○	一人一人の体調を把握し、薬に頼らず、自然排便に努めていく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々の能力に合わせた支援を行い、毎食後、口腔ケアが行われたかの確認と法人内の歯科衛生士に口腔内チェックを随時して頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録に残し体調管理に努めている。排便、体重などと照らし合わせ、個々に合せた食事形態、食事量の提供に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	法人のマニュアルを参考に周知徹底している。うがい、手洗い、除菌の徹底、手袋を使用し予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	タオル、布巾、まな板などの消毒、新鮮な食材を使用、賞味期限を守り使用している。台所、冷蔵庫の清掃の徹底に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には、手すり、スロープがあり、安心して出入りができる。苑庭にはベンチを置き寛げる空間、交流の場所がある。苑庭には、四季折々の草花が咲き、季節を感じられ、訪れやすい雰囲気づくりをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中、まぶしい日差しが入らない様にカーテンで、遮光するように工夫している。食事作りの音、匂い、季節の花を飾り、五感に働きかける工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や廊下にソファ、椅子、テーブルを置き、利用者同士がいつでも寛げるように居場所の工夫をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- : ご家族、地域の方々、ボランティア等外部の人がいつでも訪問して頂けるように、挨拶、笑顔など常に心がけている。
- : 利用者の希望を聞きながら地域の方々と交流できるよう苑外に出かける（食事、ドライブ、行事参加、訪問等）
- : 今年は自治会の役員を引き受け、役員活動や会議などにも参加している。